



# 平成26年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年7月15日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 大庄

コード番号 9979 URL <http://www.daisyo.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 平 辰

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理統括本部長

(氏名) 水野 正嗣

TEL 03-5764-2229

四半期報告書提出予定日 平成26年7月15日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成26年8月期第3四半期の連結業績(平成25年9月1日～平成26年5月31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年8月期第3四半期	55,366	△5.1	△453	—	△504	—	△684	—
25年8月期第3四半期	58,317	△0.8	1,313	△26.1	1,237	△25.0	380	△52.1

(注) 包括利益 26年8月期第3四半期 △660百万円 (—%) 25年8月期第3四半期 425百万円 (△45.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年8月期第3四半期	△33.08	—
25年8月期第3四半期	18.42	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年8月期第3四半期	48,240	25,359	52.3	1,218.68
25年8月期	48,401	26,310	54.1	1,264.88

(参考) 自己資本 26年8月期第3四半期 25,207百万円 25年8月期 26,163百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年8月期	—	6.00	—	8.00	14.00
26年8月期	—	6.00	—	—	—
26年8月期(予想)	—	—	—	8.00	14.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成26年 8月期の連結業績予想(平成25年 9月 1日～平成26年 8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	72,920	△6.1	△860	—	△920	—	△1,070	—	△51.73

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年8月期3Q	21,198,962 株	25年8月期	21,198,962 株
② 期末自己株式数	26年8月期3Q	514,541 株	25年8月期	514,501 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年8月期3Q	20,684,437 株	25年8月期3Q	20,684,571 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご活用にあたっての注意事項については、添付資料3ページの「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8
(重要な後発事象) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、経済政策や金融政策を背景に円安や株高が進行し、企業収益の改善や設備投資の増加、個人消費の持ち直しに加えて、4月の消費増税前の駆け込み需要なども重なり、緩やかな景気回復基調の中で推移いたしました。しかしながら、海外での新興国の景気減速や国内での消費増税後の反動懸念など、引き続き先行き不透明感が漂う状況が続いております。

外食業界におきましては、個人消費の回復とともに全体的には堅調に推移しましたが、一方で人材の採用難やパート・アルバイトの時給高騰などが、店舗運営上での大きな問題としてクローズアップされており、企業としては労働環境の整備や人材確保が大きな経営課題となっておりま

す。このような状況の中で、当社グループは、従業員の労働環境の改善と、今後の外食市場を見据えた抜本的な経営戦略の刷新を図ることを目的として、平成26年1月より「業務構造改革」に着手いたしました。その骨子は、一時的な売上高減少を見込んだ上で、定休日の設定を含む店舗営業時間の短縮を図ったこととあります。しかしながら、収益源の低下を最小限に止めるため、時間当たりの労働生産性を高めるべく、絶えず営業時間の見直しを行い、より最適な営業時間体制の構築に努めました。その結果、既存店売上高は、1～3月累計では対前年比87.3%と大きく減少しましたが、4～5月累計では94.5%と少しずつ改善成果が上がってきております。また、現在の人手不足問題を解消し、今後に向けた適正なオペレーション体制を構築するために、不採算店舗のリストラクチャリングを強化いたしました。さらには、従業員のモチベーションアップを図るため、来期からの実施を目標に、新しい人事制度や賃金制度の構築についても取り組みました。

一方、店舗展開においては、新規出店を3店舗、店舗改装（業態転換を含む）を12店舗、店舗閉鎖を15店舗で行いました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、前年同期に比べ5.1%減少の55,366百万円となりました。

セグメント別では、飲食事業につきましては、上記の要因により、当社グループの既存店売上高は対前年比93.9%と減少しました。このため、売上高は前年同期に比べ6.4%減少の47,377百万円となりました。

卸売事業につきましては、鮮魚卸売子会社のグループ外部取引先への売上が増加したこと等により、売上高は前年同期に比べ7.3%増加の3,090百万円となりました。

不動産事業につきましては、賃貸物件が増加したこと等により、売上高は前年同期に比べ8.9%増加の777百万円となりました。

フランチャイズ事業につきましては、フランチャイズ店舗数が減少したこと等により、売上高は前年同期に比べ5.5%減少の270百万円となりました。

その他事業につきましては、物流子会社が行うグループ外部取引先への配送業務が増加したこと等により、売上高は前年同期に比べ1.2%増加の3,849百万円となりました。

一方、利益面につきましては、売上高の減少により売上総利益額が大幅に減少したこと等により、営業損失は453百万円（前年同期は営業利益1,313百万円）、経常損失は504百万円（前年同期は経常利益1,237百万円）、四半期純損失は684百万円（前年同期は四半期純利益380百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は15,873百万円となり、前連結会計年度末に比べて966百万円増加となりました。これは、現金及び預金が1,109百万円増加したこと等によるものであります。

また、固定資産は32,366百万円となり、前連結会計年度末に比べて1,127百万円減少となりました。これは、減価償却が進んだこと等により有形固定資産残高が1,060百万円減少したこと等によるものであります。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は14,118百万円となり、前連結会計年度末に比べて190百万円増加となりました。これは、1年内償還予定の社債が757百万円増加したことに対し、未払法人税等が378百万円減少したこと及び未払金が338百万円減少したこと等によるものであります。

また、固定負債は8,762百万円となり、前連結会計年度末に比べて598百万円増加となりました。これは、社債が1,100百万円減少したことに対して、長期借入金が1,921百万円増加したこと等によるものであります。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産は25,359百万円となり、前連結会計年度末に比べて951百万円減少となりました。これは、配当金の支払いや四半期純損失の計上等により利益剰余金が973百万円減少したこと等によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年4月14日に公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	10,440	11,549
売掛金	2,611	2,566
商品及び製品	450	500
仕掛品	0	0
原材料及び貯蔵品	182	188
繰延税金資産	575	342
その他	949	928
貸倒引当金	△302	△203
流動資産合計	14,907	15,873
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,647	6,796
機械装置及び運搬具（純額）	332	479
工具、器具及び備品（純額）	691	743
土地	9,319	9,320
リース資産（純額）	1,315	905
建設仮勘定	3	3
有形固定資産合計	19,309	18,248
無形固定資産		
借地権	913	913
リース資産	13	14
その他	164	158
無形固定資産合計	1,091	1,086
投資その他の資産		
投資有価証券	212	241
出資金	6	4
長期貸付金	61	130
差入保証金	7,288	7,081
敷金	4,374	4,165
繰延税金資産	961	1,325
その他	407	389
貸倒引当金	△219	△308
投資その他の資産合計	13,093	13,030
固定資産合計	33,493	32,366
資産合計	48,401	48,240

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,560	2,450
短期借入金	1,965	1,905
1年内返済予定の長期借入金	1,699	1,992
1年内償還予定の社債	2,452	3,210
リース債務	549	422
未払金	3,199	2,861
未払法人税等	459	81
未払消費税等	182	334
賞与引当金	233	137
株主優待引当金	97	78
店舗閉鎖損失引当金	16	4
訴訟損失引当金	78	—
資産除去債務	2	20
その他	431	619
流動負債合計	13,927	14,118
固定負債		
社債	1,550	450
長期借入金	2,126	4,047
リース債務	814	566
退職給付引当金	1,378	1,418
役員退職慰労引当金	547	568
受入保証金	557	555
資産除去債務	1,165	1,153
その他	24	2
固定負債合計	8,163	8,762
負債合計	22,091	22,881
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	8,626	8,626
資本剰余金	9,908	9,908
利益剰余金	8,577	7,603
自己株式	△602	△602
株主資本合計	26,509	25,535
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	90	108
土地再評価差額金	△436	△436
その他の包括利益累計額合計	△346	△328
少数株主持分	146	151
純資産合計	26,310	25,359
負債純資産合計	48,401	48,240

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年5月31日)
売上高	58,317	55,366
売上原価	21,213	20,911
売上総利益	37,103	34,454
販売費及び一般管理費	35,790	34,907
営業利益又は営業損失(△)	1,313	△453
営業外収益		
受取利息	0	1
受取配当金	3	2
受取保険金	9	18
その他	64	59
営業外収益合計	78	81
営業外費用		
支払利息	103	88
貸倒引当金繰入額	0	3
その他	49	41
営業外費用合計	153	132
経常利益又は経常損失(△)	1,237	△504
特別利益		
固定資産売却益	—	4
国庫補助金	—	42
受取補償金	—	127
訴訟損失引当金戻入額	—	78
特別利益合計	—	253
特別損失		
固定資産売却損	7	0
固定資産除却損	51	45
店舗関係整理損	10	9
減損損失	195	251
店舗閉鎖損失引当金繰入額	0	—
固定資産圧縮損	—	42
特別損失合計	265	348
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	971	△599
法人税、住民税及び事業税	285	220
法人税等調整額	299	△141
法人税等合計	584	79
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	386	△679
少数株主利益	5	5
四半期純利益又は四半期純損失(△)	380	△684



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	386	△679
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	38	18
その他の包括利益合計	38	18
四半期包括利益	425	△660
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	419	△665
少数株主に係る四半期包括利益	5	5

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項  
 (継続企業の前提に関する注記)  
 該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)  
 該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年9月1日 至 平成25年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注) 3
	飲食事業	卸売事業	不動産事 業	フラン チャイズ事 業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	50,633	2,881	713	286	54,515	3,802	58,317	—	58,317
セグメント間の内部 売上高又は振替高	28	8,442	452	—	8,923	777	9,701	△9,701	—
計	50,662	11,323	1,166	286	63,438	4,580	68,018	△9,701	58,317
セグメント利益	1,876	610	231	219	2,938	24	2,962	△1,649	1,313

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運送事業、飲料水の製造・販売事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△1,649百万円には、セグメント間の取引消去4百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,653百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
 (固定資産に係る重要な減損損失)

「飲食事業」セグメントにおいて、店舗資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において195百万円であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 平成25年9月1日 至 平成26年5月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注) 3
	飲食事業	卸売事業	不動産事 業	フラン チャイズ事 業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	47,377	3,090	777	270	51,516	3,849	55,366	—	55,366
セグメント間の内部 売上高又は振替高	19	8,265	440	—	8,724	781	9,506	△9,506	—
計	47,396	11,356	1,217	270	60,241	4,631	64,872	△9,506	55,366
セグメント利益又は損失 (△)	173	476	258	211	1,119	6	1,126	△1,579	△453

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運送事業、飲料水の製造・販売事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△1,579百万円には、セグメント間の取引消去4百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,584百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「飲食事業」セグメントにおいて、店舗資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において251百万円であります。

(重要な後発事象)

固定資産の譲渡

当社は、平成26年6月11日開催の取締役会において、本社移転及び固定資産の譲渡を決議し、平成26年6月18日付で不動産売買契約を締結いたしました。

(1) 譲渡の理由

現本社ビルは、築40年以上経過し老朽化が進んでいることや、耐震安全性に問題があります。また、今後の経営拡大に向けて、本社機能の強化を図り、業務の効率化や生産性の向上を推進するため、新たに本社を移転することといたしました。本社移転に伴い、現本社ビルの土地・建物につきまして、経営資源の有効活用を図るため、譲渡いたします。

(2) 譲渡資産の内容

- ①所在地 東京都品川区南大井六丁目28番12号
- ②土地面積 462.21㎡
- ③建物延床面積 2,998.33㎡
- ④現況 本社事務所及び店舗

(3) 譲渡先の概要

- ①名称 ヒューリック株式会社
- ②当社と当該会社の関係 当社と当該会社との間には、記載すべき資本関係・人的関係・取引関係はなく、関連当事者にも該当しません。

(4) 譲渡の日程

- ①取締役会決議 平成26年6月11日
- ②契約締結日 平成26年6月18日
- ③物件引渡予定日 平成27年1月20日迄

(5) 損益に及ぼす影響額

平成27年8月期に特別利益として、固定資産売却益約200百万円を計上する見込であります。

以上